

スターチス・オリジナル新品種「紀州スター」の特性

1. はじめに

スターチスの産地を特徴づけ、ブランド化を推進するために本県独自の品種（オリジナル品種）の育成が求められています。そこで、生産農家及び関係機関と一体となって新品種育成を進めています。ここでは、佐藤公彦氏（御坊市）が育成した「紀州スター」の特性について紹介します。

2. 品種特性

(1) 「紀州スター」は、平成10年、栽培中の種子系品種「ソピア」のなかから開花が早く、高性で、花房の形及び草姿のよい優良個体を選抜し、その後、組織培養によって得られた品種です。

(2) 草丈が100cm以上となり、2L率が高く、分枝角度は鋭角で、草姿がよく作業性がよいのが特徴です。また、花房の形

が整い、花房数は9前後です。がくの色は、明紫(JHSCC 8604)で、「アクアブルー」青味紫(JHSCC 8310)、「サンデーラベンダー」浅紫(JHSCC 8603)とは異なります(表1、写真1、2)。

(3) スターチス萎凋細菌病には、「アクアブルー」や「サンデーラベンダー」より強い抵抗性を示しました(表2)。

(4) 花持ち性は、約20日で「ラズベリドリーム」「ティンズブルー」「スイートライラック」より優れていました(表3)。

3. おわりに

本品種は、現在登録申請中ですが、今年度には、栽培面積が約4haになる見込みで、本県産の主要品種の1つとして期待されています。

(育種部 古屋 挙幸)

表1 「紀州スター」の生育・開花特性

試験 ほ場	品種名	草丈 (cm)	分枝の 角度	切花長 (cm)	花房数 (房)	花房長 (cm)	がくの色 (JHSCC)
A	紀州スター	103.7	鋭	93.3	9.5	7.3	明紫(8604)
	アクアブルー	84.1	鋭	79.2	7.2	6.0	青味紫(8310)
B	紀州スター	118.3	鋭	90.4	8.5	7.0	明紫(8604)
	サンデーラベンダー	104.3	中	95.7	11.2	8.0	浅紫(8603)

注) Aほ場 定植：2002年9月6日、露地条件下で実施
ビニール被覆：10月10日、加温：11月20日から最低温度を18℃に設定
Bほ場 定植：2002年9月10日、露地条件下で実施
ビニール被覆：10月15日、加温：11月22日から最低温度を15℃に設定

表2 「紀州スター」の生物検定による萎凋細菌病抵抗性程度

品種名	供試 株数	発病株率 (%)			
		枯死	萎凋	葉脈赤変	正常
紀州スター	10	0	0	30.0	70.0
アクアブルー	10	30.0	0	20.0	50.0
サンデーラベンダー	10	20.0	0	30.0	50.0

注) 病原菌の接種：2003年8月20日、苗の根端を切り、病原菌汚染土壌に移植
接種後の管理：ガラス温室において底面給水で行った。
調査：2003年10月24日、枯死・萎凋・葉脈赤変・正常の4水準で調査

表3 切り花後の茎葉の黄化における品種間差異

品種名	茎葉の黄化までの日数 (日)
紀州スター	20.6±2.7
ラズベリドリーム	12.2±1.6
ティンズブルー	18.2±1.0
スイートライラック	16.8±2.9

注) 切り花日：2003年4月21日、各10本/品種、サイズ2L
水揚げ；6時間、箱詰め；18時間、その後、水道水に入れて調査
調査室内温度23℃、500lux、24時間照明



写真1 紀州スターの花房



写真2 紀州スターの草姿